

## A.2 追加性に関する情報

投資回収年

投資回収年数	4.0
--------	-----

年

### A.3 排出削減量の算定方法

#### A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量	tCO2/年	513
EM <sub>BL</sub>	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	655.4
EM <sub>PJ</sub>	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	142.0

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

#### A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

##### (1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

##### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的な排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的な排出活動のモニタリング・算定方法を定めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 付随的な排出活動である「バイオマス原料の運搬」については影響度による算定を行い、「バイオマス固形燃料の運搬」については算定を省略する。「バイオマス固形燃料化処理設備の使用」「対象設備に付帯する追加設備の使用」については算定を行う。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
バイオマス原料の運搬	12.7	2.5	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料化処理設備の使用	32.7	6.4	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料の運搬	4.2	0.8	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
対象設備に付帯する追加設備の使用	96.6	18.8	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	142.0	28.5	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。

※3 方法論で規定された方法から選択すること。

※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

### A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

(考え方) ※1	バイオマス固形燃料（木質チップ）を活用するため、プロジェクト実施後の主要排出量は 0 tCO2/年である。
----------	---

$$EM_{PJ,M} = 0 \quad (式3)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,transport,feedstock} + EM_{PJ,S,proces} + EM_{PJ,S,transport,biosolid} + EM_{PJ,S,auxiliary} \quad (式4)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	146.2
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	12.7
$EM_{PJ,S,proces}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	32.7
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	4.2
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	96.6

$$EM_{PJ,S,transport,feedstock} = F_{PJ,S,transport,feedstock} \times HV_{PJ,transport,feedstock} \times CEF_{PJ,transport,feedstock} \quad (式5)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	12.7
$F_{PJ,S,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量	KL/年	4.9
$HV_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	37.9
$CEF_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,S,proces} = 0.05 \times F_{PJ,biosolid}$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,proces}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	32.7
0.05	バイオマス固形燃料化処理設備の使用におけるプロジェクト実施後排出原単位（デフォルト値）	tCO2/t	0.05
$F_{PJ,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量	t/年	654.0

$$EM_{PJ,S,transport,biosolid} = F_{PJ,transport,biosolid} \times HV_{PJ,transport,biosolid} \times CEF_{PJ,transport,biosolid} \quad (式8)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	バイオマス固形燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	4.2
$F_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量	KL/年	1.6
$HV_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	37.9
$CEF_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,S,auxiliary} = EL_{PJ,auxiliary} \times CEF_{electricity,t} \quad (式9)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	96.6
$EL_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	169,516.8
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000570

### A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の生産量（処理量）等を、プロジェクト実施後の乾燥機（熱風炉）はなく、ベースラインの熱風炉から得る場合に想定されるCO2排出量とする。

#### (2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$P_{BL} = P_{PJ} \quad (式b-11)$$

記号	定義	単位	想定値
$P_{BL}$	ベースラインの乾燥設備における乾燥重量等	t/年	953
$P_{PJ}$	プロジェクト実施後の乾燥設備における乾燥重量等	t/年	953

### A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って、排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

$$EM_{BL,M} = P_{BL} \times BU_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (式b-12)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	655.4
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	655.4
$P_{BL}$	ベースラインの乾燥設備における乾燥重量等	t/年	953
$BU_{BL}$	ベースラインの乾燥設備におけるエネルギー使用原単位	GJ/t	9.9
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数(A重油)	tCO2/GJ	0.0693

$$BU_{BL} = \Sigma (F_{before,fuel} \times HV_{BL,fuel}) / \Sigma P_{before} \quad (式b-13)$$

記号	定義	単位	想定値
$BU_{BL}$	ベースラインの乾燥設備におけるエネルギー使用原単位	GJ/t	9.9
$F_{before,fuel,A}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量(A重油)	kL/年	507.4
$HV_{BL,fuel,A}$	ベースラインの乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量(A重油)	GJ/kL	39.8
$P_{before,A}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における乾燥重量等(A重油)	t/年	2035.0
$F_{before,fuel,B}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量(再生油)	kL/年	128.5
$HV_{BL,fuel,B}$	ベースラインの乾燥設備で使用する燃料の単位発熱量(再生油)	GJ/kL	39.7
$P_{before,B}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における乾燥重量等(再生油)	t/年	514.0

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式 )

記号	定義	単位	想定値

#### A.4.1 モニタリング計画

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
$F_{PJ,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量	t/年	A	バイオマス燃料供給会社からの納品書より把握する	対象期間で累計	654	想定投入量×年間稼働時間	
$P_{PJ}$	プロジェクト実施後の乾燥設備における乾燥重量等	t/年	C	汚泥投入量をトラックスケールにより把握し、バイオマス燃料による処理量を算定する	対象期間で累計	953	実施後の予測燃料使用量、予測処理量から推測	
$F_{PJ,fuel,A}$	プロジェクト実施後の乾燥設備における燃料使用量（A重油）	KL/年	A	燃料供給会社からの納品書より把握する	対象期間で累計	104.6	購買伝票より燃料使用量を把握	
$F_{PJ,fuel,C}$	プロジェクト実施後の乾燥設備における燃料使用量（RPF）	t/年	C	運転日報よりRPF投入量を把握する	対象期間で累計	3,270.0	投入量より誤差率を加味して把握	
$ELPJ,auxiliary$	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	C	設備の定格消費電力が記載されたカタログを保管する。	対象期間で累計	169,516.8	設備の定格消費電力×年間稼働時間	
$P_{before,A}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における乾燥重量等（A重油）	t/年	C	生産記録をもとに算定	PJ開始直近1年間以上の実績を累計	2,035.0	実施前の燃料使用量、処理量	
$P_{before,B}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における乾燥重量等（再生油）	t/年	C	生産記録をもとに算定	PJ開始直近1年間以上の実績を累計	514.0	実施前の燃料使用量、処理量	
$F_{before,fuel,A}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量（A重油）	KL/年	C	運転日報から流量計で計測された燃料使用量を把握する	PJ開始直近1年間以上の実績を累計	507.4	流量計より燃料使用量を把握	
$F_{before,fuel,B}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量（再生油）	KL/年	C	運転日報から流量計で計測された燃料使用量を把握する	PJ開始直近1年間以上の実績を累計	128.5	流量計より燃料使用量を把握	
$F_{before,fuel,C}$	プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量（RPF）	t/年	C	運転日報よりRPF投入量を把握する	PJ開始直近1年間以上の実績を累計	2,023.0	投入量実績値より燃料使用量を把握	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。  
 分類B（計量器）を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。  
 分類C（概算等）を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数 (単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>CEFelectricity,t</i>	電力のCO2排出係数	GJ/kWh	Ⅲ	デフォルト値を使用する	検証申請時に最新のものを使用	0.000570	デフォルト値	平成25年度全電源炭素排出係数
<i>HV,PJ,biosolid</i>	プロジェクト実施後の対象設備で使用するバイオマス固形燃料の単位発熱量	GJ/t	Ⅱ	供給会社からの提供値を利用	年1回	18.7	計量証明書の分析値を確認する	高位発熱量基準
<i>HVBL,fuel,A</i>	ベースラインの工業炉等で使用する燃料の単位発熱量 (A重油)	GJ/KL	Ⅲ	デフォルト値を使用する	検証申請時に最新のものを使用	39.8	デフォルト値	高位発熱量基準
<i>HVBL,fuel,B</i>	ベースラインの工業炉等で使用する燃料の単位発熱量 (再生油)	GJ/KL	Ⅱ	供給会社からの提供値を利用	検証申請時に最新のものを使用	39.7	試験結果報告書の発熱量分析値を確認する	高位発熱量基準
<i>HVBL,fuel,C</i>	ベースラインの工業炉等で使用する燃料の単位発熱量 (RPF)	GJ/t	Ⅱ	供給会社からの試験成績書の発熱量分析値を確認する	検証申請時に最新のものを使用	25.0	品質規格の基準値を利用	高位発熱量基準
<i>CEFB<sub>L</sub>,fuel</i>	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/KL	Ⅲ	デフォルト値を使用する	検証申請時に最新のものを使用	0.0693	デフォルト値	高位発熱量基準

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。  
 分類Ⅰ (実測) を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。  
 分類Ⅱ (第三者提供値) を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

#### A. 4. 2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A. 4. 1 (1) においてモニタリング分類B (計量器)を使用する場合の計量器について説明すること。

##### (1) 計量器の概要

###### ①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

###### ②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

##### (2) モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。



### A. 4. 3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4. 1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	①プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量 ②プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量(A重油) ③プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量(再生油) ④プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量(RPF) ⑤プロジェクト実施後の乾燥設備における燃料使用量(RPF) ⑥プロジェクト実施後の乾燥設備における乾燥重量 ⑦プロジェクト実施前の乾燥設備における乾燥重量												
(推定・概算方法)													
①プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量 (kWh/年) = 追加設備の定格消費電力(kW) × 稼働時間(h) × 年間稼働日数(d/年) ・ 木質バイオマス燃料供給コンベア、ホッパーの合計定格消費電力 <span style="float: right;">32.4 kW</span> ・ 稼働時間…保守的に運転時期は24時間稼働すると考える <span style="float: right;">24 時間</span> ・ 年間稼働日数…営業カレンダーより把握する <span style="float: right;">218 日</span> よって 32.4 kW × 24h × 218日 = 169,516.8 kWh/年													
②プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量 (A重油) ③プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量 (再生油) ②および③について、運転日報より流量計により計測された燃料使用量を把握する。 なお、計量法に基づいた検定等を受けていない流量計により計測するため、誤差率を考慮して保守的に算定を行う 流量計の仕様書より、測定精度±0.5%となっているため、燃料使用量から0.5%を誤差率として除することで削減量を保守的に算定する。													
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>流量計</th> <th>フローベットEG</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>メーカー</td> <td>株式会社オーバル</td> </tr> <tr> <td>使用温度範囲</td> <td>0~120℃</td> </tr> <tr> <td>フランジ規格</td> <td>JIS 10K RF、ASME150RF</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>1.18MPa</td> </tr> <tr> <td>精度</td> <td>表す量の±0.5%以内</td> </tr> </tbody> </table>	流量計	フローベットEG	メーカー	株式会社オーバル	使用温度範囲	0~120℃	フランジ規格	JIS 10K RF、ASME150RF	最高使用圧力	1.18MPa	精度	表す量の±0.5%以内	② 509.9KL/年 × 99.5% 509.9 × 0.995 = 507.4KL/年 ③ 129.1KL/年 × 99.5% 129.1 × 0.995 = 128.5KL/年
流量計	フローベットEG												
メーカー	株式会社オーバル												
使用温度範囲	0~120℃												
フランジ規格	JIS 10K RF、ASME150RF												
最高使用圧力	1.18MPa												
精度	表す量の±0.5%以内												
④プロジェクト実施前の乾燥設備における燃料使用量 (RPF) ⑤プロジェクト実施後の乾燥設備における燃料使用量 (RPF) ④および⑤について、運転日報の投入量から使用量を把握する。 なお、計量法に基づいた検定等を受けていない計量器のため、誤差率を考慮して保守的に算定を行う。 過去の1年間の購入量と使用量の数値より誤差率を設定する。													
平成24年度 RPF投入量 1863.7 t/年 RPF購入量 2010.5 t/年 誤差率 7.3 % よって投入量に7.3%の誤差率を加味することで、保守的なベースライン排出量の算定を行う。													
④2,182.3t/年 × 92.7% = 2,023t/年 ⑤3,047.5t/年 × 107.3% = 3,270t/年													
⑥プロジェクト実施後の乾燥設備における乾燥重量 ・ プロジェクト実施後の乾燥炉全体の処理量 →実績値がないため昨年度処理量と同等とした場合 <span style="float: right;">7,647.3 t/年</span> ただし、乾燥炉全体における投入燃料が下記の通り3種類あるため、 熱量ベースでバイオマス燃料に対する処理量を推計する													
<燃料使用量> ・ 重油使用量 <span style="float: right;">104.6 kL/年</span> ・ RPF使用量 <span style="float: right;">3,270 t/年</span> ・ 木質バイオマス使用量 <span style="float: right;">654 t/年</span>	<単位発熱量> ・ 重油発熱量 <span style="float: right;">39.8 GJ/KL</span> ・ RPF発熱量 <span style="float: right;">25 GJ/t</span> ・ バイオマス発熱量 <span style="float: right;">18.7 GJ/t</span>												
<熱量> ・ 重油由来の熱量 <span style="float: right;">4,165 GJ/年</span> ・ RPF由来の熱量 <span style="float: right;">81,749 GJ/年</span> ・ 木質由来の熱量 <span style="float: right;">12,230 GJ/年</span>	熱量合計 <span style="float: right;">98,144 GJ/年</span> <small>※RPFの単位発熱量はRPF品質規格 石炭相当より 一般社団法人日本RPF工業会</small>												
よって、バイオマス燃料由来の処理量 7,647.3(t) × 12,230(GJ/年) ÷ 98,144(GJ/年) = 953(t) なお、⑤にてRPF使用量を保守的に算定しているため、汚泥処理量についての補正誤差の評価は不要とする。													

⑦プロジェクト実施前の乾燥設備における乾燥重量

- ・ プロジェクト実施後の乾燥炉全体の処理量

→2013年実績 7,647.3 t/年

ただし、乾燥炉全体における投入燃料が下記の通り3種類あるため、  
熱量ベースで重油燃料に対する処理量を推計する

<燃料使用量>

- ・ 重油使用量 507.4 kL/年
- ・ R P F 使用量 2,023 t/年
- ・ 再生油使用量 128.5 t/年

<熱量>

- ・ 重油由来の熱量 20,193 GJ/年
- ・ RPF由来の熱量 50,575 GJ/年
- ・ 再生油由来の熱量 5,100 GJ/年

<単位発熱量>

- ・ 重油発熱量 39.8 GJ/KL
- ・ R P F 発熱量 25 GJ/t
- ・ 再生油使用量 39.7 GJ/KL

※再生油とは…工場等で利用された潤滑油やモーターの絶縁油などを主成分とする燃料

熱量合計 75,868 GJ/年

よって、重油由来の処理量

$$7,647.3(t) \times 20,193(GJ/年) \div 75,868(GJ/年) = 2,035(t)$$

よって、再生油由来の処理量

$$7,647.3(t) \times 5,100(GJ/年) \div 75,868(GJ/年) = 514(t)$$

なお、④にてRPF使用量を保守的に算定しているため、汚泥処理量についての補正誤差の評価は不要とする。

(モニタリングポイント)

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類 A ~ 分類 C) に準じた説明を

モニタリング項目	